

# 生涯学習における指導者研修体系の構築

清 國 祐 二

Yuji KIYOKUNI

## The Construction of the Directors Training System in the Context of Lifelong Learning

[キーワード：生涯学習指導者，指導者研修，研修体系，生涯学習推進センター]

はじめに

急激な社会変化と社会の成熟化にともない、人々の学習の多様化、多元化、高度化が進行している。そのような中で、生涯学習を支援し、援助するためには、生涯学習指導者のよりすぐれた資質と専門化された能力とが必要となる。また、地域の生涯学習の推進に重要な役割を果たす専門指導者やボランティア指導者等の潜在的な指導者の発掘及び活用が求められている。生涯学習行政にとって、指導者層の養成及び研修の機会を整備・充実することが急務となっている。

上記の課題に応えるべく、各自治体による「都道府県立生涯学習推進センター（以下、「推進センター」）」の設置が漸次進められ、現在33館（29都道府県）を数えている<sup>1)</sup>。「推進センター」は県域にわたる生涯学習を支援・推進するための機関として、また生涯学習関連施設の中核的施設として、その役割・機能が期待される。周知のとおり、生涯学習指導者の養成及び研修事業は、「推進センター」の中心的機能のひとつであり、その目的は、地域における様々な生涯学習の支援・援助に直接関与する指導者の発掘と資質の向上にある。「推進センター」の設置により、生涯学習指導者に対する「教育センター」としての機能の拡充が望まれている<sup>2)</sup>。

本稿は、以上のような生涯学習推進上の重要かつ基礎的な部分である研修事業に注目し、都道府県の「推進センター」を中核とした生涯学習指導者研修体系の構築を試みるものである。

### 1. 「推進センター」の機能

本論に入る前に、「推進センター」に求められる機能を全体として確認しておきたい。その意図は、「推進センター」機能における研修事業の位置づけ、他の機能との関連性を明らかにすることにある。

「推進センター」の機能や役割を総括したものとしては、中央教育審議会答申「生涯学習の基盤整備について」（平成2年）があげられよう。（ただし、かつての社会教育センターが担っていた機能を基本的には踏襲していると考えられる。）そこには、次のような機能が明記されている。

- ① 生涯学習情報の提供及び学習相談体制の整備充実に関すること
- ② 学習需要の把握及び学習プログラムの研究・企画に関すること
- ③ 関係機関との連携・協力及び事業の委託に関すること
- ④ 生涯学習のための指導者・助言者の養成・研修に関すること生涯学習の成果に対する評価に関すること
- ⑤ 地域の実情に応じて、必要な講座等を主催すること  
なお、放送大学との連携・協力をを行うこと

また、広島県立生涯学習センターが平成5年に全国の「推進センター」等に対して実施した調査によると、「現在実施している事業および機能」と「今後必要となる事業および機能」の回答結果を総合的に判断して、「推進センター」の機能を次の4つに集約している<sup>3)</sup>。ただし、③に関しては、公民館等の地域の学習施設が実施する学級・講座を意味するのではなく、先導的なプログラム開発にもとづくモデル事業の展開を志向している。

- ① 情報収集と情報提供・相談事業
- ② 指導者養成・研修
- ③ 学級・講座の開設
- ④ 調査研究

以上、「推進センター」の機能は4から6項目で構成されており、職員もそのような認識に立っている。ただ

し、ここで確認しておきたいのは、これらの機能がそれぞれ独立した目的をもち、達成されるべきものではないということである。例えば、「指導者養成・研修」の中に、「情報収集と情報提供・相談事業」の内容や方法が含まれるべきであろうし、「調査研究」は生涯学習全般にわたって行われるべきである。つまり、これらの諸機能が「地域生涯学習の推進」という共通の目標に向かって有機的、補完的に結びつきながら展開することで、はじめて「推進センター」が十全に機能しうるのである。

## 2. 研修事業の開発

### 1) 研修の根拠

教育関係職員に対する研修の目的と実施についての規定は、教育公務員特例法（第十九条、第二十条）に定められている。教育公務員に対しては特に「その職責を遂行するために、絶えず研究と修養に努め」ることを義務づけており、またその任命権者に対しては「教育公務員の研修について、それに要する施設、研修を奨励するための方途その他研修に関する計画を樹立し、その実施に努め」ることを義務づけている。社会教育法（第九条の六、第二十八条の二）では、研修の義務こそ明記しているが、その重要性と機会の保障に触れている。

上記の法律を根拠とするまでもなく、生涯学習指導者はその広範な職域のため、絶えず研鑽に励み、資質及び能力の向上を図らなければ職務を全うできなくなっている。ところが、職員体制の十分とはいえない職場環境で、日常的な自己研修の保障がなされているとはいえない。 「推進センター」は、このような状況を考慮した上で、多様な研修の機会を保障する必要がある。

### 2) 研修の対象と目的

生涯学習の性質上、その指導者の種類は多岐にわたっている。生涯学習指導者を総体として論ずると、研修の企画・立案は困難なものとなる。さらにいうと、そのような研修では研修の焦点化が期待できず、まず効果はあがらない。効果的な研修を実施するためには、研修目的の明確化が必須条件となる。

その手順として、まず対象の限定による研修課題の設定が必要とされる<sup>4)</sup>。表Iの通り、想定される対象が多様であるので、共通する課題の下に研修の焦点化が行われることが望まれよう。それに基づき、研修目的の設定が行われ、最適な研修内容と方法・形態が決定される。

表I 研修対象の分類

研 修 対 象 の 分 類	所 属 別	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会教育主事，公民館主事，図書館司書学芸員</li> <li>・社会教育施設の指導系職員，社会体育施設設の指導系職員</li> <li>・学習相談員，学習推進員</li> <li>・民間指導者</li> <li>・地域リーダー</li> <li>・ボランティア</li> <li>・教職員</li> <li>・行政職員</li> <li>・その他</li> </ul>
	機 能 別	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習の内容に関する指導者</li> <li>・学習集団等の運営上のリーダー</li> <li>・生涯学習のコーディネーター</li> <li>・学習者を支援・指導するボランティア</li> <li>・その他</li> </ul>
	経 験 別	<ul style="list-style-type: none"> <li>・未経験者</li> <li>・初任者（2年未満の経験）</li> <li>・3～5年経験者</li> <li>・6年以上の経験者</li> </ul>
	地 域 別	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市町村単位</li> <li>・行政区分による（ブロック単位）</li> <li>・全県域</li> </ul>

### 3) 生涯学習指導者の資質と研修

生涯学習における研修の体系が最も整理されたものとしては、社会教育主事の研修があげられる。今回は、一般的な研修内容まで触れるには及ばないが、ひとつの参考資料として、社会教育審議会（成人教育分科会）「社会教育主事の養成について（報告）」（昭和61年）に記載されている「社会教育主事に求められる資質・能力」を確認しておきたい。この資質や能力は、生涯学習指導者に求められる資質や能力の基礎的領域をほぼ網羅していると考えられるからである。

この表から、生涯学習指導者の役割は学習支援の側面に大きなウエイトが置かれていることがわかる。その意味では、講師等の専門指導者の資質や能力はこれには該当せず、むしろ学習者理解や指導能力（アンドラゴジー理論）を中心とした研修体系が想定されよう。

表Ⅱ 社会教育主事に求められる資質・能力

①	学習課題の把握と企画立案の能力 地域課題の把握、学習ニーズの把握、地域の教育資源の把握 社会教育計画の立案、事業の円滑な実施、社会教育指導者に指導・助言
②	コミュニケーションの能力 学習情報提供、学習相談事業の展開 新しいメディアの活用、情報の収集・整理・提供 広報・広聴に関する知識・技術の修得 学習者の潜在的な欲求までとらえ、適切な対応ができる能力
③	組織化援助の能力 集団学習の特質の理解、それが発揮されるような組織化への援助 地域への関心を高め、地域の連帯感の醸成や地域活動への参加へ向ける能力 グループワーク等人間関係や集団に関する知識と技術の習得
④	調整者としての能力 生涯学習関連施設及び事業(民間の教育・文化・スポーツ事業等も含む)との連携 生涯学習関連施設及び事業の地域における構造化の能力
⑤	幅広い視野と探求心 人々の学習要求の多様化、高度化への認識 多種多彩な内容と水準の学習機会の提供 “ 学習情報の提供・学習相談等の実施 幅広い視野と一般的な知識の獲得 さまざまな内容領域の基本的な構造を読みとる方法論の獲得

社会教育審議会(成人教育分科会)「社会教育主事の養成について」(1986年)より作成

### 3. 研修事業の役割と課題

#### 1) 研修事業とネットワーク

生涯学習施設のネットワークの必要性は絶えず関係者によって論じられてきたが、理念やシステム論が先行して、実態はあまり機能しているとはいえない。ネットワークの構築には、中核的施設が存在、施設間の人的交流や情報交換、広域事業や連携事業の開催などの実際の要素が有機的な連関をもたなければならない。これらの要素と研修事業との関係を見直す必要がでてきている。

研修の本来の目的は、いうまでもなく指導者の資質や能力の向上にある。しかし、研修機会の提供のあり方次第では、研修を通じた人的交流、つまりネットワークの形成という副次的な効果が期待される。換言すると、研修事業の目的のひとつとして人的ネットワークの形成を掲げ、それに沿った研修内容、方法、形態を創造するということである。例えば、隣接する市町村の指導者が参加する研修において、それぞれの抱える問題点や課題を

出し合いながら共通項を探り、問題解決へ向けての共同作業を行う(実践的課題研究)。その中で得られた成果をもとに、実際に共同事業の開催へと展開することなどが考えられる。

ここで、人的ネットワークの形成を志向させる社会的状況を簡単に確認しておこう。生涯学習の実態を考慮すると、人々の学習の高度化、多様化は確実に進行し、その学習ニーズに市町村が単独で対応することが困難となってきた。加えて、急激な社会変化による社会的問題もその数を増すと同時に、深刻化の一途をたどっている。このような状況は、学習機会の提供という側面からみて、従来の市町村という地域の枠組みの限界性を示唆していると考えられる。市町村の枠を越えた施設の連携や事業の共催等の広域事業の展開が、幅広い住民のニーズに応えるための有効な手段となりうる。つまり、それらの限界を克服するという視点から、人的ネットワークの形成を意図した研修機会の整備が求められるのである。

## 2) 学習へのレディネスの形成

効果的な研修を企画するには、学習へのレディネスが重要な前提となる。生涯学習指導者の多くは日常的に学習者との関わりをもっており、学習者の要求に見合うような学習機会の提供や学習支援を図っている。それらの活動の中で、多くの指導者は、学習課題の設定、学習事業の展開と評価、住民の学習活動への関わり（情報提供、学習相談）等、共通の課題を有している。また、地域独自の課題も存在しよう。

これらの課題を解決する手段として研修が位置づけば、それぞれのもつ課題が即レディネスにつながる。成人教育の原理のひとつに学習へのレディネスがあるが、生涯学習指導者の研修も同様に高いレディネスものとに実施されるべきであろう。

そのために、生涯学習指導者が共通に抱えている問題の把握が急務となり、解決の方向付けのできる研修機会の提供が必要となる。

## 3) 研修事業における「推進センター」の役割

研修事業を実施するにあたって「推進センター」の果たすべき役割には次のようなものがある。

### ① 研修に関する調査研究

研修全般における生涯学習指導者のニーズの把握と研修の活用実態および自己研修の状況の把握が緊急の課題である。また、市町村の抱える地域課題の把握と市町村の研修実態（実施状況、参加状況及びそれに対する配慮）の把握も同時に必要となろう。

### ② 研修計画の策定

研修の実施においては、通常の年次研修計画のみならず、3年から5年を見通した中期研修計画等の策定が重要となる。生涯学習指導者の勤務形態、地理的条件、研修ニーズ等の便宜を考慮し、計画的に参加が可能となるよう、研修時期、研修場所、研修形態などに十分な配慮が求められる。

### ③ 研修とその評価

養成及び研修の学習成果の評価をどのように行うかを検討する必要がある。都道府県独自の単位化や資格化、あるいは大学等との連携による単位化などの先導的試みが期待される。

### ④ 研修による人材の発掘と活用

養成・研修を通して地域の人材の発掘、活用及び組織化が行われる必要がある。例えば、学習成果を活かす「場」の提供による人材活用の方法が考えられよう。また、それらを市町村レベルにおける「機構」づくりへと結ぶことが今後の課題となろう。

## ⑤ 社会教育主事等のリカレント教育

教員には、大学院入学などのリカレント教育が制度として保障されている。しかし、社会教育や生涯学習の重要性が増大しているにもかかわらず、それらの関係者にそのような学習機会が開かれているとはいえない。さらなる資質の向上、あるいは実践と理論の統合という観点からも、専門性の高い社会教育主事等のリカレント教育の実現が望まれる。そこで経験を積んだ社会教育主事等は生涯学習主事（仮称）として、地域ブロックの指導主事的な役割を担い、地域の生涯学習の底上げにその能力を発揮するなどのシステムが構築されよう。

## 4 研修事業の構造

本節では、図Ⅰおよび図Ⅱの概念図を用いて生涯学習指導者の研修事業の構造化を試みる。その中で、鍵概念となる、〈支援〉と〈指導〉、〈理論〉と〈実践〉のそれぞれの関連性を考察し、それらが発展する過程で統合へと向かうことを究明する。

### 1) 指導者別研修課題の設定

図Ⅰでは、研修課題を〈研修内容〉と〈研修方法・形態〉という2つの軸で捉え、さらに指導者の類型別研修課題をそれに重ねた。まず、横軸には、学習への〈支援〉と〈指導〉の理念と方法をそれぞれ両極とする研修内容の軸を設定し、指導者の学習者に対する役割から導き出される研修課題の位置づけを試みた。縦軸には、〈理論・講義〉と〈実践・演習〉を両極とする研修方法・形態の軸を設定した。

この2次元モデルに指導者の研修課題を重ねると、指導者の種類によって研修内容に相違が生じることが浮き彫りとなる。研修方法・形態に関しては、指導者の類型にかかわらず、理論と実践の統合を志向したバランスのとれた研修が必要となろう。これは、日常の実践を角度をかえて見直したり、新たな知見を得るための「理論・講義」、現場における実際的な活用を目指した「実践・演習」、この双方を経験することによって獲得されることを前提としている。

### 2) 指導者研修の構造

図Ⅱは、図Ⅰの2次元モデルに〈高度化・専門化〉の軸を加えた3次元モデルである。このモデルの特徴は、2次元モデルのそれぞれの軸の両極に位置する〈支援〉と〈指導〉、〈実践・演習〉と〈理論・講義〉が、〈統

合>へと向かうところにある。換言すると、〈理論〉と〈実践〉および〈支援〉と〈指導〉を相反する概念としてとらえるのではなく、むしろ研修内容の深化により〈統合〉へと向かうものとして捉えている。また、高度化・専門化の軸は、研修内容のレベルを指すものであるが、指導者の経験年数あるいは研修年数（自己研修も含む）との読み替えも可能であろう。

したがって、図Ⅱの表現する研修の捉え方は、研修を重ねることによって、対象が未分化で理論と実践の分化した基礎領域の広範で網羅的な内容から、対象の分化が図られ理論と実践の統合が絶えず意識された専門領域の高度で専門的な内容へと段階的に発展するというのである。それが、この螺旋状の研修モデルの示す意味である。

これをスムーズにかつ効果的に達成するためには、前節で述べた「推進センター」の役割の中の研修の中長期計画の策定と、次節で述べる研修体系および研修メニュー方式（いわゆる「学習メニュー方式」の研修版といえる）が有効な手だてとなろう。研修メニュー方式とは、指導者がそれぞれ各自の学習経験や実践経験を自己評価することにより、段階に応じた専用の研修メニューを作成することである。これが成立するためには、メニューとして選択可能な研修機会の整備が緊急の課題となる。ただし、メニューにあるすべての研修を毎年実施するのではなく、研修の対象や効果によっては、隔年あるいは数年ごとの実施にすることも考えられる。そのための中長期計画の策定なのである。

さらに学習相談や情報提供という側面で見れば、研修を担当する「推進センター」職員が積極的に情報提供や啓発活動を行い、研修者の研修メニューの作成を援助したり、様々な研修者の要求に応えるべく日常的な支援活動を行ったりすることが職務の重要な一部となる。

### 3) 支援と指導

上記の横軸に設定した支援と指導の概念が、生涯学習の文脈でどのようにとらえられているのか確認しておく必要がある。

一般的に生涯学習指導者といえば、前節で取り上げた「研修対象の分類」表の通り、社会教育主事や生涯学習関連施設の指導系職員、教育委員や社会教育委員などの生涯学習推進員、民間指導者、地域リーダー、ボランティア、教員、講師など多様な専門指導者、など多岐にわたっている。

本稿の文脈からいって、教員を除くほとんどの指導者は成人を対象とする指導者である。したがって、学校教

育における、支援と指導との概念と若干性質を異にする。それは、学習者の発達段階や学習へのレディネス、さまざまな経験の有無によって引き起こされるものであると理解できる。

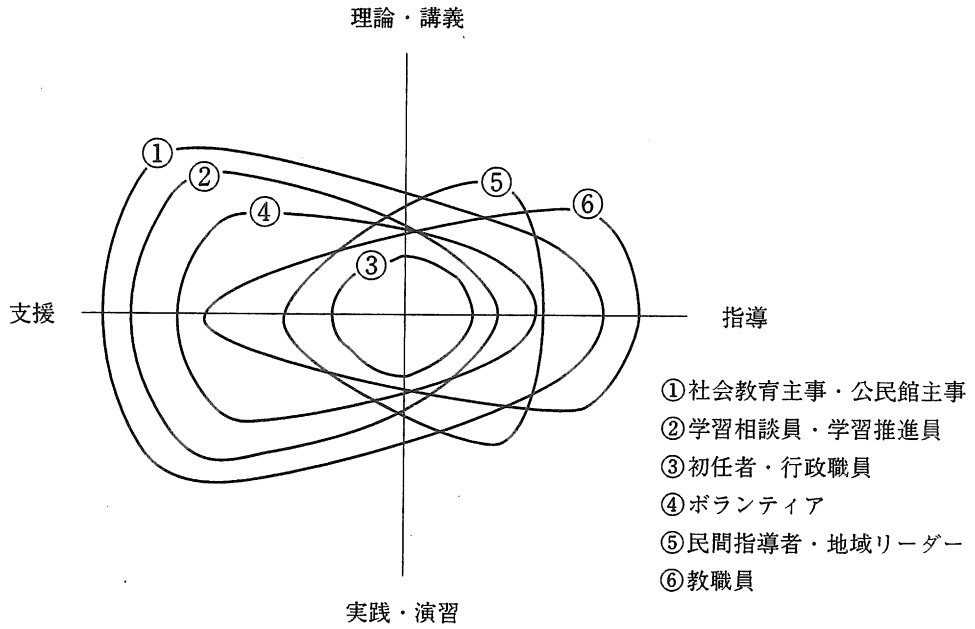
支援とは、学習者が主体的に何かを学ぼうとしている場合に、学習相談を行ったり、学習情報提供あるいは学習機会の提供を行ったりすることである。ここで留意すべき点は、学習者の自主性及び主体的態度である。換言すると、アンドラゴジー理論による成人学習者の特徴を前提とすることである。その態度を尊重し、学習情報・機会の提供等の学習者の要求を充足する援助を行うこと、あるいは学習の妨げとなっている要因を取り除くことなどが支援の指し示す役割と考えられる。

それに対して指導とは、学習者が学ぼうとしている領域・内容について直接的に教授すること、あるいは行き詰まった学習者や学習グループに方向づけのための学習課題の設定等を行うことである。最も典型的なものは、講師が講義・講演などを通して教授することや実践・演習において学習の方向づけを行うことなどである。また、視聴覚機器やニューメディア機器を利用したい学習者に対し、その利用方法を教える行為などもそれにあたる。

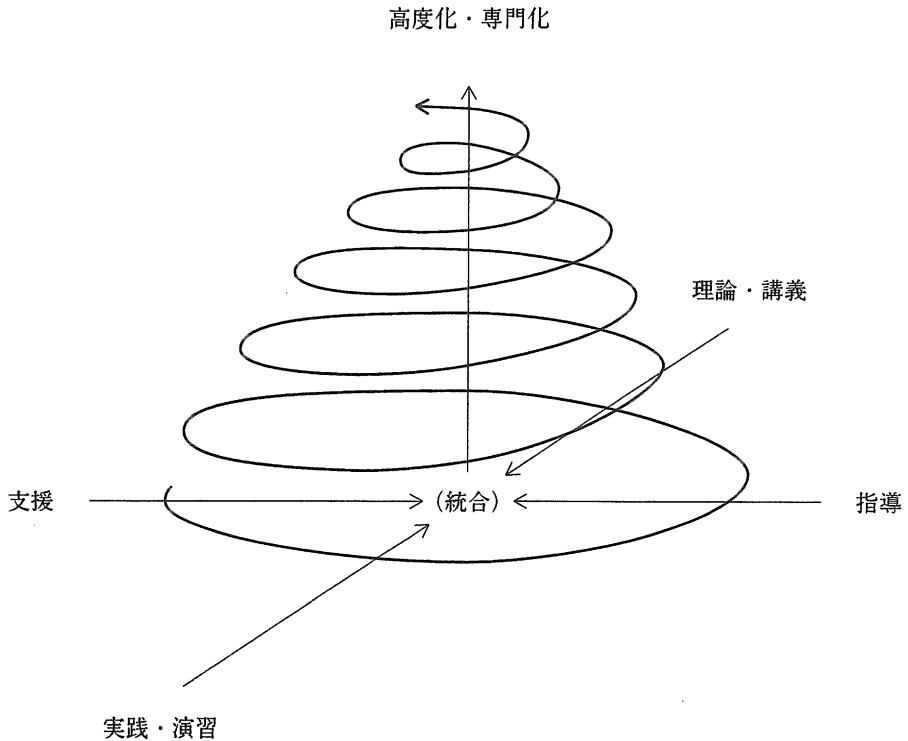
分類すると上記のようになるが、学習が高度化・専門化あるいは学際化すると、これらの領域の境界が曖昧となる。これを大学のゼミを例にとって説明しよう。講義や演習において、教官と学生、両者は明らかに指導を媒介とした「教授-学習」の関係である。しかし、ゼミなどの場合、学生の研究内容が教官の専門領域を外れた場合には、直接的指導というよりは、教官自身の専門領域からみた内容面での示唆であったり、あるいは研究方法への示唆であったりする。このような状況では、支援と指導は明確に区別されるものではなく、両者は新たなものを産み出す創造的な概念へと統合される。

したがって、支援と指導が相反する概念ではなく、学習が成熟すればそれらは自ずと統合へと向かう、とする図Ⅱの3次元モデルの妥当性が認められよう。

図Ⅰ 指導者別にみる研修内容および研修方法・形態



図Ⅱ 指導者研修の3次元モデル



高度化  
専門化

図Ⅲ 生涯学習指導者研修体系

講  
義  
研  
修  
一

生涯学習指導者総合研修

生涯学習計画専門講座

生涯学習プログラム専修コース

社会教育施設経営セミナー

学習相談・  
推進専門講座

生涯学習ボランテ  
ィア指導者研修

地域リーダー実践講座

地域リーダー研修

家庭教育オピニオン  
リーダー研修

研修担当者  
実践講座

企業  
研修担当者  
セミナー

地 域 生 涯 学 習 研 究 セ ミ ナ ー

社会教育施設職員基礎講座

生涯学習基礎講座

ボランティアリーダー養成講座

生涯学習基礎講座

生 涯 学 習 セ ミ ナ ー

社会教育主事  
公民館主事

社会教育施設職員  
生涯学習関連施設職員

学習相談員  
学習推進員

初任者  
行政職員

ボランティア

民間指導者  
地域リーダー

教職員

企業担当者

〈生涯学習指導者の種類〉

## 5. 「推進センター」の研修事業体系

これまで、生涯学習指導者の研修体系の構築のために、「指導者の分類」, 「研修の課題・内容及びレベル」, 「研修方法・形態」を中心に構造化を試みた。本節ではそのまとめとして「推進センター」における研修事業の具体的設定を実験的に行う。

従来の研修事業は、上述の通り、その構造化・体系化が十分でなかったために、提供者側も、講師側も、受講者側も一定の到達目標をもつことができなかった。そのために、意識のズレが生じ、結果的に不消化のままそれぞれが「こなす」ことで研修を終えるということが少なからずあった。そこで、図Ⅲのような研修体系図を試作してみた。

並列型の研修図とは異なり、研修の対象、目的、レベル等の明確化が図られている。このメリットは、受講者の主体的、計画的参加（研修メニュー方式）、提供者の焦点化された研修企画（講師の選定と依頼）、講師の研修課題に合致した内容設定（充実した講義）等を可能にすることにある。それによって、研修の充実が図られ、学習へのレディネスの向上、体系化された鮮明な研修イメージ、研修成果の積極的活用などが以前にもまして期待できる。

本稿では、研修目的の設定、研修課題・内容の精選及び研修成果の評価等の研究課題に対する十分な考察を行うには至っていない。したがって、今後は研修そのものに関わるこれらの課題を継続的かつ発展的に究明することが不可欠となつてこよう。

## 注

- 1) 拙稿「生涯学習センターのネットワーク化に関する研究」『島根大学教育学部紀要（教育科学）』第27巻1号、1993年、p.16。現在は、秋田県生涯学習センターの分館「ジョイナス」を含め33館となっている。
- 2) 従来、指導者養成・研修は都道府県の教育委員会社会教育課や社会教育センター等において社会教育という枠組みの中で実施されていた。「推進センター」においては、さらに幅広い生涯学習指導者を計画的、効果的、継続的に実施することが期待される。
- 3) 前掲書、p.8。
- 4) 岡本包治編著『これからの指導者・ボランティア』（現代生涯学習全集5）ぎょうせい、1992年、pp.42-43.、上杉孝実・岸本幸次郎編『生涯学習時代の指導者像』亜紀書房、1988年、pp.18-32.などを参考に作成した。

## 参考資料

- 1) 社会教育審議会（成人教育分科会）「社会教育主事の養成について（報告）」昭和61年
- 2) 中央教育審議会「生涯学習の基盤整備について」平成2年